

2022年度業務実績報告書

提出日 2022年12月27日

1. 職名・氏名 准教授・國崎大恩

2. 学位 学位 修士（人間科学）、専門分野 教育学、授与機関 大阪大学、授与年 2006年3月

3. 教育活動

<p>(1)講義・演習・実験・実習</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育原理（2単位）1年次 ・教師論（2単位）1年次 ・教育社会学（2単位）1年次 ・教育史（2単位）1年次 ・導入ゼミ（2単位）1年次 ・教育実習（3単位）3～4年次 ・教職実践演習（2単位）1年次 ・日本の文化と社会（2単位）1～3年次
<p>②内容・ねらい</p> <p>教職課程の科目においては、文部科学省より指定されているコアカリキュラムをふまえた授業内容とし、学校教員として最低限必要となる知識・技能の習得をねらいとして授業を実施した。</p> <p>導入ゼミについては、学校教育の慣例を批判的に考察することを主な授業内容とし、ディスカッションやレポート作成等の大学生活にとって必要となる知識・技能の習得をねらいとして授業を実施した。</p> <p>日本の文化と社会においては、「もののけ姫」の読解を通して日本の文化と社会について考察することを主な授業内容とし、教育学的観点から日本の成長観の変遷について概説するとともに全体のとりまとめ教員としてオムニバス授業全体のコーディネートをおこなった。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>教師論において、福井県立こども歴史文化館の館長および県立図書館の司書をゲストスピーカーとしてお招きし、学校と地域の公共施設との連携のあり方について講義をしていただいた。また、教育史の授業では、福井県立こども歴史文化館の学芸員をゲストスピーカーとしてお招きし、子どもに歴史を伝えることについて講義をしていただいた。</p> <p>導入ゼミでは福井県立こども歴史文化館においてフィールドワークをおこなった。教育史の授業では、永平寺、福井県立歴史博物館、福井県立こども歴史文化館、福井県教育博物館においてフィールドワークをおこない、歴史を伝えること・表現することの方法について実践的に理解することに努めた。</p> <p style="text-align: right;">【ゲストスピーカー 2人】 【フィールドワーク等 5件】</p>
<p>(2)その他の教育活動</p>
<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験の受験希望者に対する筆記試験・面接試験の対策

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	
1. 『実践につながる教育原理』、共著者有（编者として全体校正を担当、序（2-7頁）と10章（152-168頁）をそれぞれ執筆）、2022年、北樹出版。 2. 『デューイ著作集 2 哲学 2 論理学理論の研究, ほか』、共著者有（「3 心理学における反射弧の概念（1896）」と「8 「意識」と経験（1899/1910）」の翻訳担当）、2022年、東京大学出版会。	【2本】
②学術論文（査読あり）	
* 1. 「〈心理学における反射弧概念〉の記号論的考察」、共著者無、福井県立大学論集（57）、2022年3月。 2. 「看護基礎教育における数理・データサイエンス教育に必要なデータドリブン型（データ駆動型）アプローチ—方法論間の信念対立に陥らないために—」、共著者有（中田康夫、伴仲謙欣、 <u>國崎大恩</u> 、桐村豪文、高松邦彦）、神戸常盤大学紀要（15）、2022年3月。	【2本】
③その他論文（査読なし）	
	【0本】
④学会発表等	
* 1. 「データ駆動型教育をめぐる議論の土壌と教育学研究のこれから（ラウンドテーブル データの中の教育／教育の中のデータ）」、日本教育学会（2022年8月）、共同報告者無。 * 2. 「メディアの“厚み”を取り戻す—GIGA スクールの時代の教育可能性を教育思想史研究から問う—（シンポジウム 学びのメディア変容の思想史的／同時代的考察—GIGA スクールの時代をどう見るか—）」、教育思想史学会（2022年9月）、共同報告者無。 3. 「高等教育におけるルーブリック普及のためのリファレンスルーブリック（R2）の作成と導入後の科目ルーブリックとの比較」、2022年度第2回 JASLA 研究会（2022年12月）、共同報告者有（伊藤彰、伊藤響、西山慶太、高松邦彦、桐村文豪、 <u>國崎大恩</u> 、近藤みづき、小崎遼介、岸田あおい、北松淳平、甲矢浩喜、中田康夫）。	【3件】
⑤その他の公表実績	
	【0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】	
・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)、「教師の発達的変容と教育実践をめぐる関係性の動態的記述」、2021年4月-2025年3月。	
【学内】	
・学術教養センター競争的資金「リベラルアーツの理論と実践」、2022年4月-2023年3月。	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
・ Editorial Board Member, IJIRM: International Journal of Institutional Research and Management.	

5. 地域・社会貢献活動

⑥公開講座

1. 「教育学から考える恐竜博物館の歩き方― 親子で楽しむ博物館のススメ」(福井県立大学、7月)。

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

- ・教職課程部会 (2019年4月～現在に至る)
- ・予算委員会 (2022年4月～現在に至る)
- ・新学部新設に伴う教職課程認定の申請作業

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など